

令和元年度第1回広島市立図書館協議会 会議要旨

日時	令和元年9月10日(火) 午前10時00分～午前11時45分		
場所	中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	1名
出席者	委員：林委員、竹澤委員、池田委員、沖元委員、庄委員、筒井委員、大上委員、新田委員 事務局：飯富市民局次長、手島生涯学習課長、塩満中央図書館長、福島中央図書館副館長、野口中央図書館事業課長、原田こども図書館長、小川中区図書館長、中東区図書館長、吉留南区図書館長、漆谷西区図書館長、金山安佐南区図書館長、山村安佐北区図書館長、水主川安芸区図書館主任、石村佐伯区図書館長、井上湯来河野閲覧室長、森川まんが図書館長、頼政あさ閲覧室長、中谷指導第一課長		

議事(会議要旨)

1 開会

2 議事

(1) 図書館事業について

資料1・資料2に沿って、中央図書館副館長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(新田委員)

平成30年度、令和元年度業務実施状況をみると、特色ある図書館事業を実施している図書館に偏りがあるのではないかと思うが、いかがか。

(中央図書館長)

各区の図書館は中央図書館の分館という位置づけで、各館同様のサービスをする一方で、地域性を意識した事業を行っている。例えば、中区図書館は国際青年会館と一緒にすることで地の利を生かした事業をしているし、安芸区図書館は地域に中南米の方が多い、ということでスペイン語やポルトガル語コーナーの充実を意識している。引き続き、各館の地域特性を生かしながら、事業を実施していきたいと考えている。

(池田委員)

良い評価と課題について申し上げたい。

まず、安佐北区図書館が実施している、「農業・園芸関連事業」はとても大切な取組だと思う。公民館等と連携し、地域ぐるみの活動に広げて頂いて、好事例となるのであれば安佐北区だけでなく佐伯区など、他の地域でも広がっていくのではないかと感じた。

続いて、こども図書館の英語版のホームページ作成について、今後英語だけではなくてあらゆる言語に拡充していただきたい。広島市内は中国語・韓国語のニーズもあろうかと思う。乳幼児教育の中でも英語を取り入れている保育園もあるので、ぜひ、積極的に取り組んで頂きたい。

次に、認知症に関する講座であるが、大学との連携講座の開催は大事だと考えている。広島市内、近隣大学で様々な学部があるので、是非、特色を生かしながら広げてもらえれば、より一層図書館を身近に感じることができるようになると思う。

次に、佐伯区図書館が実施している、「ぬいぐるみのお泊まり会」は、子ども達がワクワクドキドキする機会をきっかけにしており、とても興味深く感じた。

最後に、現在こども食堂が増えているが、こども食堂を利用する子ども達は本に触れ合う機会や時間がないように感じている。こども食堂にも本のリサイクル事業を呼びかけていただいて、本を読めるような環境を整えてもらえればと思う。

(安佐北区図書館長)

「農業・園芸関連事業」として、今年度は、親子体験教室と銘打って、可部公民館、亀山公民館と共催でハロウィンに向けてのカボチャを作ろうという講座を行った。また、それを活用して、区内4つの公民館、安佐南区の公民館、計5つの公民館とカボチャのランタンを作る取組を進めている。地域の公民館と連携を深めながら、農業に関心をもってもらい、農業・園芸コーナーの利用につなげていきたい。

(こども図書館長)

昨年度、こども図書館の英語版ホームページを作成したが、その他にも多文化理解の一環として、年間、5カ国語のおはなし会を実施している。今後も、可能な限り充実させていきたい。

(佐伯区図書館長)

平成29年度から「ぬいぐるみのお泊まり会」を実施しているが、子ども達に図書館に親しんでもらうインパクトのあるきっかけになるよう、地域の身近な図書館としてこれからも続けていきたいと考えている。

(中央図書館事業課長)

平成29年度から大学と連携して認知症に関する取組を行っている。

また、大学との連携という観点では、広島大学との連携講座を毎年実施しており、機会を捉えて引き続き実施していきたい。

(中央図書館副館長)

こども食堂への本のお譲りに関して、資料1に記載のある本のリサイクルフェア等の他に、児童館や幼稚園など個別の施設・団体に児童書を直接お譲りする事業もあるので、またご説明させていただきたい。

(竹澤委員)

7月豪雨災害による利用者数の影響があれば教えていただきたい。

また、「ウィキペディアタウン in 広島」の若者編と一般編の対象者を具体的に教えていただきたい。

(中央図書館副館長)

利用者数は対前年度比0.8%減少しており、大きな原因は7月豪雨災害により入館者が減少したことだと考えている。実際にこの時期に8%減少し、その後盛り返した経緯がある。

加えて、3月にまんが図書館が工事により休館したことも原因のひとつであると考えている。

(中央図書館事業課長)

昨年度は若い方に郷土広島を知っていただく機会になればと思い、若者編と題して実施した。参加者は、高校生と大学生が中心だった。

今年度は、より広く周知することを目的に、一般編と題し対象者を広げて開催予定である。

(沖元委員)

ともはと号の見学会とおはなし会が平成29年度と比較して増加しており、子ども達におはなしが届いていると感じ嬉しく思う。おはなし会は保護者も一緒に聞いているのだろうか。

また、学校図書館支援ということで講師派遣や講座開催があるが、対象者や内容について教えていただきたい。

(中央図書館事業課長)

幼稚園訪問の回数増により実績が伸びている状況である。実施にあたっては、例えば1回目は園の子ども達を対象に、2回目は保護者や地域の子どもの達も一緒に、というように園の要望を聞きながら多くの方に参加していただけるよう開催しているところである。

(こども図書館長)

学校図書館担当の先生や司書を対象に、学校図書館の運営や破損した本の修繕方法に関して講座を行っている。

(林委員長)

議事1、図書館事業について、以上とする。

議事2、子どもの読書活動推進計画の推進状況について、願います。

(2) 子どもの読書活動推進計画の推進状況について

資料3・資料4に沿って生涯学習課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(新田委員)

学校における重点施策のうち、「本を読む力を育てる指導の充実」の、「様々な本や資料を基に自分の考えをもたせる指導をしている学校の割合」について、平成30年度実績は広島県の平均と差があるのではないかと思う。対話的で深い学びを実践するように学習指導要領も改訂されているので、先生方は実践していない訳ではなく、もっとこうすればできるという前向きな考えがでた結果ではないかと感じている。

どのような手を打てば、先生方が子ども達に自分の考えをもたせる指導をしていると満足感を得ることができるのか、考えを聞かせていただきたい。

(指導第一課長)

本市においては、総合的な学習の時間の中で時間を抽出し、たくさんの資料の中から自分に必要な情報を取り出し、各教科等で身に付けた知識や経験と関係付けて思考・判断し、自らの考えを適切に表現するという、言語・数理運用科を実践してきた。この度の学習指導要領の改訂により、探究的な学びを重視することとなったため、言語・数理運用科で学んだことを生かしながら、自分で設定した課題解決に向かって、図書や様々な資料から自分が必要な情報を取り出し、探究していくという学びをより進めていくことが重要になる。

学習指導要領の改訂により、数値の上昇が見込めるのではないかと考えている。

(新田委員)

広島市はシステムのしっかりしているし、先生方もカリキュラムを組みやすいのではないかと思う一方で、ポイントが低いことが不思議に思う。計画の最終年度に向けて、先生方はしっかり実践されていると思うので、そこを認識してもらうことが必要かと考えている。

(大上委員)

私自身、図書ボランティアとして学校で本の読み聞かせをしているが、学校の先生方が子ども達に少しの時間でも本を読むことが大切ではないかと感じている。また、お忙しいこともあり、本にあまり詳しくない先生方も多いので、図書館教育研究部会等に図書館から講師を派遣して、読書の楽しさを先生方に感じていただくことが必要ではないかと考えているが、いかがか。

(指導第一課主任指導主事)

今年度、図書館教育研究部会の中で、公立図書館から派遣された司書によるストーリーテリングの実演と講義を行ったところである。

先生達が子ども達と一緒に本を楽しむ、教室の中で本を話題に出す、そういったことが大切だと感じているので、引き続き、図書館教育研究部会等を通じて、読書活動推進に向けた取組を続けていきたいと考えている。

(林委員長)

学校の取組に関する話に焦点が当たっているので、続いて議事3「学校司書の配置による効果について」も併せてご説明をお願いしたい。

(3) 学校司書（臨時司書）の配置による効果について

資料5に沿って指導第一課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(沖元委員)

課題として学校司書が勤務する日数、時間を増やしてほしい、とあるが、まさにその通りで、学校司書の勤務日数が少なく、なかなかお話することもできない状況にある。そういった状況の中で、子ども達に自分たちが図書館を良くしていくという意識を持たせるという意味でも、司書のお手伝いをしてもらうことがよいのではないかと感じている。

(指導第一課長)

今後学校司書の増員にむけて予算確保に努めていきたい。

(庄委員)

図書館において、様々な活動が行われており素晴らしいと思う反面、活動内容が情操教育に繋がる楽しむ読書に力が入りがちではないかと感じている。

今後は、情報源として資料を活用する力が求められるのではないと思う。その中で、ウィキペディアタウンの活動は、情報をこちらから発信しよう、そのために調べようという、これまでとは視点が違った活動であり、高く評価したい。読書はもちろん大切で基本となる活動だが、視点を変えて、情報をどのように読み取り、利用していくのか、また、資料の収集に当たっては、本だけでなく新聞やインターネットの情報源をどのように提供していくのか、そのような点も合わせて考えていただきたいと思います。

(指導第一課長)

情報の取扱いを学ぶことは現代社会のニーズであり、新学習指導要領では国語科の中で学習するように明記されている。色々な媒体から、自分が必要な情報をいかに取り出し、取り出した情報を他者に伝えるためにいかにまとめるか、そのような力がこれからの子ども達には必要であり、国語科を中心に力をいれていきたいと考えている。

また、平成30年度から、各学校で選んだ子供新聞を学校図書館に配備するようにしているので、引き続き活用していきたい。

(林委員長)

学校司書が多数在籍してほしい、と思う一方で、児童生徒や先生方がお客さんのような状況にならないことを願っている。つまり、子ども達自身も一緒になって図書館を作り上げる、すべてをやってあげるのではなく、共につくる、ということが必要ではないかと考えている。

続いて、学校司書の研修について、学校司書だけの研修で終わらずに、司書教諭とセットでの研修を検討してもよいかと思う。先生方が忙しい中で、メリハリをつけながら行ってほしい。

(池田委員)

資料3の「図書館と学校・学校図書館の連携・協力」について、中学校の平成30年度実績が約10ポイント減少している。加えて、資料5の4ページの公立図書館との連携のパーセンテージが低い。こういったところに関連性があるのではないかと感じており、より密に連携できる方向性が見つかればと思う。

また、図書館と学校の利用に関して、富山など先進的な取組をしているので、その様子についてまた情報提供があればありがたい。

(沖元委員)

家庭読書アドバイザーの派遣に関して、素晴らしい取組なので、ぜひ公民館で実施している子育て広場でも働きかけて、家庭での読み聞かせや本と親しむことの大切さについて伝えていただければと思う。

(林委員長)

議事3については以上とする。

(4) その他

- 地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律の公布に伴う図書館法等の一部改正について

参考資料2に沿って生涯学習課長が概要を報告した。

- 浅野氏広島城入城400年記念事業の実施について

時代行列・入城行列・記念式典及び広島市立中央図書館企画展について、生涯学習課長及び中央図書館事業課長が概要を説明した。

- 展示「認知症にやさしい図書館」について

チラシに沿って、中央図書館事業課長が概要を説明した。

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。